

研究課題：宇治茶の生産・文化を持続させる「地域主導型ツーリズム・マネジメント」手法の開発

研究課題/領域番号：20K12418

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：京都文教大学・総合社会学部・教授 森 正美

### (概要)

本研究は、農業生産としては危機的状況にある「宇治茶」が、世界文化遺産登録を目指し日本遺産に認定され、観光資源や地域継承の核となろうとする過程を分析し、観光振興とコミュニティの持続の両立を可能とする「地域主導型ツーリズム・マネジメント」のモデル構築をめざすものである。近年、茶の消費量は世界規模で増大し、健康・美容志向とも重なり、抹茶・緑茶ブームが起きている。なかでも宇治茶は、その歴史や文化を背景に「文化財」として価値づけられ、グローバルな「文化的商品」として評価されつつある。観光分野では体験価値向上を伴う「ティー・ツーリズム」の動きがみられ、国内外の交流人口増加に寄与している。そこで本研究では、京都府を主たるフィールドとして、茶農家、茶問屋、茶商などの茶業者、住民、移住者、観光客、観光事業者、行政担当者など多様な主体の実践と、そこに関わる様々なモノ、情報、ルールの相互関連を調査考察し、宇治茶を核として「生産・文化・観光・消費」を繋ぐ新たな組織や担い手のあり方、それらを支えるルールや制度の課題を解明し今後の方向性を明らかにする。